

## 令和5年度甲賀圏域地域医療構想調整会議(第1回) 議事概要

- 日時 令和5年7月18日(火)14:00~15:45
- 場所 甲賀合同庁舎 4階 4A 会議室
- 出席者  
出席委員： 浅田委員、星山委員、宇田(青木委員代理)、辻川委員、古倉委員、真田委員、  
中島委員、田中委員、遠藤委員(Web)、富山委員、古川委員、與那城委員、  
中井委員、伊藤委員、保井委員、松原委員 随行者3人  
欠席委員： 佐井委員  
傍聴者： 4人  
事務局： 滋賀県甲賀健康福祉事務所(甲賀保健所) 真溪次長・奥井副参事・藤林副主幹・  
杉原管理栄養士・原主事、医療政策課 藤脇主任主事

### ○ 議事の経過概要

開会あいさつ 滋賀県甲賀健康福祉事務所(甲賀保健所)長 松原  
委員交代の紹介： 紫香楽病院真田委員、保険者協議会保井委員が交代

### (議事)

#### 1. 議長選出

- ・ 互選により浅田議長を選出
- ・ 議長挨拶

#### 2. 甲賀圏域地域医療構想調整会議について

- ・ 事務局から、地域医療構想調整会議の目的を説明。
- ・ 以下について、合意済みとして報告し、意見なし。  
<甲賀圏域は、「2025年・2040年を見据えた場合「病床過剰」の状態ではなく、また、圏域内病院で概ね役割分担できている>
- ・ 病床数変更がないか確認し、変更の報告、意見ともになし。
- ・ 地域包括ケアシステムは「在宅医療福祉推進協議会」にて検討しており、直近の会議結果を再報告。次回今年度の結果を報告予定。

議長： 意見質問はないか

委員： <意見なし>

#### 3. 医療機関ごとの具体的対応方針について(情報共有)

- ・ 公立病院の委員(甲賀病院、信楽中央病院)から、「公立病院経営強化プラン」等の策定状

況の説明を受けた。

- ・ 甲賀市委員から甲賀市内3病院の連携のための動き(会議)について情報提供があった。
- ・ 公立病院2か所の策定の進捗を「共通認識」できたとし、引き続き報告を得ることとなった。

(公立甲賀病院)

- ・ 公立病院経営強化プランは、来年の春までに策定することとなっている。今年の4月から第2期中期計画(4年)が始まっている。
- ・ 甲南病院や信楽中央病院と連携、慢性期の方についても紫香楽病院や信楽中央病院と病病連携を強化していく。心血管疾患については二次救急ではあるが、できるだけ引き受けて、甲賀保健圏域内での急性疾患は各病院の協力をいただきながら完結して行く予定。
- ・ 働き方改革について、A 水準を目指している。医師の時間外労働の記録をエクセルで管理し、把握する。一つの診療科において突出している医師がいないように均てん化していく予定。80時間未満を目指して実施する。
- ・ 最大の課題である看護師の確保はコンサルを活用して進めている。休棟48床中25床を再開予定。看護師の働き方改革についても様々な意見をもらいながら、病院全体でコメディカルや事務も含めて確保し、フル再開を目指す。
- ・ 新興感染症における感染拡大時等の対応について、前の新型コロナウイルス感染症のこともふまえて甲賀圏域内発生時にどう診るか、プランに入れていきたいと思っている。
- ・ 施設設備の最適化については様々なデジタル化に対応していきたい。
- ・ 経営の効率化について、経常収支がほぼ同等程度、中期計画+1年を足して維持していけるように目指しているところ。

事務局：資料の6ページ目からは、甲賀病院から資料提供して頂いた内容を提示。具体的な目標値等を掲載されているので、後ほど御確認いただきたい。

委員：救急はどの程度対応できるか。

委員：当院は、救急救命センターではないものの、冠動脈、心臓、腹部の外科も含めて今のレベル以上を目指す。

(信楽中央病院)

- ・ 経営分析にあたりコンサルティング会社と契約して、当院の状況を分析してもらい、町内の患者の流入流出の分析をしているところ。水口診療所の閉鎖にあたり、今後、ショートステイなどをどう補完していくかを検討している。
- ・ 地域包括ケアの導入も必須と考えている。来年度から医師の働き方改革をA水準、当直月6～7回をまず改革していかないと難しいと考えているところ。

(甲賀市)

- ・ 入院施設の連携として3院長会議を実施している。公立甲賀病院と甲南病院、信楽中央病院の院長と理事長による会議。
- ・ 始まりは甲賀市地域医療審議会で検討したことをきっかけに昨年10月から開始し、次で5回

目。小人数でざっくばらんに意見交換をしていただく場として提供している。病院の連携や分担について重要だと認識した上で、課題や要望について話し合いをしていただいている。

- ・ 現在は、ベッドコントロールが上手く行くように連携を検討し模索されているところ。院長会議で方向性を定めてもらっている。
- ・ 病院の実情を打ち明けて頂いていることでスムーズに事が運び、さらに市が入ることで潤滑油的な役割を果たしていると思っている。3病院で話し合ってもらっているが、また幅広い連携をしてもらえればと思っている。

議 長： 湖南省を含めた甲賀圏域としての連携の話は、この会議で行うということで。

委 員：行政として、医療のフリーアクセスを制限するものではないが、現状としては2次医療圏での完結を目指すのが基本姿勢になる。

委 員： 例えば当院と甲西リハビリ病院とでリハビリの関係で連携を深める方法を模索し、実施している。甲賀市内で完結をという訳ではないことを申し添える。

委 員： 地域的に甲賀圏域、草津栗東守山野洲からのアクセスもある。回復期リハ病床が100床あり、特化していることもある。実際の患者の状況は、甲賀圏域7割、草津栗東3割の流れとなっている。圏域で進めるというよりも人の流れとして考えていただきたい。ただ、横田橋を中心として湖南省よりの地域は甲賀病院よりも済生会病院を受診される流れもある。人の流れとしてひとくくりにはできない話ではないことを申し添える。

#### 4. 外来機能について

- ・ 事務局から「外来医療計画」について説明。

##### (1) 紹介受診重点医療機関の認定について

- ・ 事務局から「紹介受診重点医療機関」について説明した。
- ・ 「意向あり」かつ「基準該当」の甲賀病院について認定が決定された。

議 長： 診療報酬の点数は変わらないようであるが、地域としては今まで通り運用していく感じだと思う。意見はあるか

委 員： 重点外来について、これは急性期に限った話か。

事務局： 急性期に限らない

委 員： 甲西リハは紹介、特にリハビリが多いが、これも含まれるということか。

事務局： 資料 22 ページの①②③に該当するかによる。

委 員： 紹介する側として算定をどう判断すればよいか

事務局： これまでと変わりなくて大丈夫

委 員： これまで通り紹介して、紹介先(公立甲賀病院)で算定するということで了解した。

議 長：甲南病院は初診が基準の40%を超えそうだが、超えたら申請するのか。

委 員：基準が満たせば申請する。

事務局：また次の外来機能報告にて実績と意向有無を把握し、今日のように確認することになる。

議 長：公立甲賀病院を紹介受診重点医療機関に認定するというので異議はないか。

委 員：<異議なし>

## (2)医療機器共同利用の受け入れ医療機関の確認について

- ・事務局から、湖南整形外科こやまクリニックよりMRI機器が共同利用可能と計画書が提出されたことを説明した。
- ・この協議の場で確認し、積極的活用を申し合わせた。

委 員：「湖南整形外科こやまクリニック」のMRI機器は何テスラか。

事務局：この場ではわかりかねる。情報共有の方法等と含めて当クリニックが案内するか確認したい。

議 長：今だと紹介状を書いて、紹介先のところで支払いを勘定してもらっている。医院として、診療報酬として検査代を請求するとなると高額になる。査定があったときには、請求書は来るけれど、診療報酬は切られたという事態もある。開業医にとっては、請求書が回ってくる分が懸念される。現状のままでいいか、こうした共同利用がこの地域で本当に必要かどうかはそれぞれ考えたらいいと思う。

事務局：こういう資源があることをご存じいただければと思う。

## 5. 地域医療介護総合確保基金について

- ・事務局より、同基金の概要を説明。
- ・R6年度提案の状況(圏域内0件、全県27件)を報告した。R7年度事業について、目的に資する取組を前向きに検討されるよう説明。質問意見なし。

## 6. 次期県保健医療計画における二次医療圏について

- ・事務局から、二次医療圏について、甲賀の見直し要件該当状況と県の方針(二次医療圏の再編なし、当面維持)を説明した。特に意見はなかった。

議 長：心臓外科・小児救急で4ブロック化が行われているが、他の分野は今のままできっちりまとまっており、滋賀県としてはこのまま進めていくのだろうか。

高島だけは人口が少ないが、湖北とは生活圏が全く違う、大津と併合するのでなければ、過疎化が進むまでは現状で行くのか

委 員：要は高度医療、先端医療は集約化が始まっている。急性期も既に4ブロックになってきている。一方、福祉・介護・慢性期の部分は集約化したくてもできない、むしろさら

に細かくすべきである。だからこういう項目ごとに検討していくのがいいと思っている。

事務局：資料にあるように、5疾病・6事業および在宅分野については、基本的な運用は二次医療圏を基本とするが、地域の実情において、効果的効率的な医療の提供のためにブロック化が可能とされている。また、それ以外の一般的な医療については、現在の状況を維持するつもり。

委員：＜意見なし＞

## 7. その他

- ・事務局から、今後、医療需給について、現状を示す住民の声、医療従事者の経験、データを持ち寄って、検討してはどうかと提案し、意見交換した。
- ・結果、精神科・心療内科の不足感、産科・小児科の不足感、かかりつけ医(医科、歯科とも)の高齢化に伴う人材不足の懸念が示され、賛同の方向でまとまった。
- ・次回の会議については、甲賀病院と信楽中央病院の公立病院経営強化プランの策定スケジュールを確認しながら、1、2、3月を念頭に開催。開催方法は、基本、集合とWebの組み合わせ、場合によっては、書面も選択肢。

議長：甲賀圏域は足りないというと、心療内科の先生が足りない。紹介したくても一か月待ちだとか。紹介先にも苦勞する。また、産科・小児科専門医が少ないのではないか。他の医療圏にアクセスして受診できるので、何とかなっている部分はあると思うが、将来への不安は、共通で認識しておくのは必要と思う。精神科の方はどうなのか。

委員：平日はともかく、うつ症状だと普段は勤務しており、土曜日に受診が偏る。初診だと1か月待ち。解消はしていきたいところだが、曜日も考慮しながら、早く診られるようにしたい。

委員：水口病院を中心として、入院面では恵まれている。日本全国だと思うが、心療内科として対応できる所が少ない。地域医療支援病院の立場として、逆紹介したくてもできない。色々な診療科がある中で、紹介しにくい。外来が減らせない。紹介できる医師が増えていかない。診療科別にどの程度充足しているかのデータがあればと思う。小児救急でもNICUは人材が不足しており、回すのが厳しい。働き方改革で医師を集めないと回せない状況。通常医療と急性期・精神とわけて考えていく必要がある。一般的な診療は圏域内で確実に完結させる、危なくなったら甲賀圏域の開業を促進する方向性にしていきたい。

委員：△△医院には、精神科の医師が週一日勤務しているが1か月待ちの状態と聞いている。

患者の中には、水口病院は敷居が高い、クリニックがいいという人がいる。話を聞くだけで落ち着くが、医師には話を聞く時間がない。甲南病院には公認心理師が常勤で二人いる。いったん甲南病院を紹介していただき、地域の資源として活用していただければと思う。

委員：精神科は大都市に偏る傾向。地元で受診したくないという思いがある。これは県としてどうにかしないといけない課題。また、高齢化社会で多病化が進んでいる。精神疾患と身体疾患の合併など病院間で何とか連携がとれないものか。二次医療圏を維持するのは、医師看護師の確保が直近の課題。地元の人には地元に残って下さいという方針を県としても持っている。

委員：地域のかかりつけ医・かかりつけ歯科医が高齢化している。水口地域では数は増えているが、土山地域は先生が高齢化している。継いでいく二世もいない。なかなか厳しい状況。この地域に開業は難しいかもしれないが、医科歯科の状況を把握して議論していくのも大切だと思う。

議長：医師会としても、医師の平均人数は少ない方である。何とか回っているのは生活圏が他の保健医療圏に向いていて、そこで医療を受けている人も多いから。その結果バランスはとれているという捉え方もできる。

大学病院の先生の外来診療について、働き方改革もあるがこのままいけそうなのか。

委員：そうそう問題はないかと思っている。ほかに情報があれば。

委員：三月末まで滋賀医大で勤務していた。宿日直の体制はできており、何か対応が必要になったときのみ、勤務扱いになるので、長時間労働に影響する心配は少ないかと。

議長：一般科の診療所においても心療内科のようなことができるように、勉強していきたい。

事務局：ここまでのご意見を総括すると、甲賀圏域ではここが足りない、甲賀圏域の医療を維持するためにここを強化といった意見交換ができるといい、ということか。ただ、行政では一側面からの情報提供しかできず、現実に即したものの点では難しいので、病院・団体が持っている情報を提供していただきたい。

委員：＜意見なし＞

事務局：次回の会議について、甲賀病院・信楽中央病院の公立病院経営強化プランについて、議会の議決にもっていくぐらいのほぼ確定の計画を確認したい。

時期は、2月頃と想定している。開催形式は、どのような形式がよいか、意見願う。

委員：甲賀病院は、2月では遅いかもしれない。

委員：信楽中央病院は、2月でも確定できているか、予測は難しい。

事務局：甲賀病院と信楽中央病院の公立病院経営強化プランの策定スケジュールを確認しながら、1、2、3月を念頭に開催したいと思う。基本、集合とWebの組み合わせ、場合によっては、書面も選択肢に。

委員：＜了承＞

議長：開催日については、都合がつかない人もあるので、今回のようにwebと現地ハイブリッドがいいだろう。

閉会あいさつ 松原